

教育資料室だより

No.3 令和2(2020).10.1

発行 桐生市立教育資料室

桐生市小曾根町1-9 電話・FAX (43)3171

桐生の教育史をたどる

【学制その2】

桐生学舎の開校式は明治6年10月24日に挙行されます。生徒135名、教師5名。翌7年7月1日、校名を「桐生学校」と改称。生徒数の増加により11月に桐生新町二丁目書上文左衛門宅の一棟を借用し「北舎」、浄運時を「南舎」としました。文部省年報(明治8年)によると、南舎は、男子124名、女子91名、教師5名。北舎は、男子52名、女子39名、教師4名とあります。



その後、「北舎」は学校用地(現北小学校敷地内)の寄付を受けて校舎を新築し、明治11年4月24日、県令楫取素彦臨席の下、落成式が行われます。建坪182坪、木造二階建、漆喰塗りのモダンな洋風の建物(上の写真)でした。これが現在の北小学校の前身となります。



現在の南小は明治6年10月19日民家を借用して「新宿学校」として開校しました。東小は明治7年1月16日、同じく民家を借用して「安楽土学校」として開校します。生徒数の増加により明治12年3月に分校ができ、翌年3月安楽土西校として独立します。これが現在の西小となります。従って、東小と西小は開校日が同じです。

こうして当時はまだ村だった境野・広沢・相生・川内・梅田・菱など、旧桐生市内(平成の合併前)の多くの学校は、明治6~8年頃に開校しています。〈学制その3へ続く〉

☆参考『桐生市教育史』『群馬県教育史』

大里仁一先生 ありがとうございました

去る8月23日、教育資料室の設立に尽力し、平成8年から約22年の長きに渡り、運営に携わってこられた大里仁一先生が逝去されました。多大なるご功績に敬意を表するとともに心より哀悼の意を捧げます。どうぞ安らかに眠りください。

桐生の人物 <その1>

きりゅう ろくろう
桐生六郎

生年不明[平安時代末期]
~1181[養和元年]
或いは1183[寿永2年]

写真は、桐生六郎が築いたと伝えられる「梅原館」跡に、後世建立されたお堂「梅原薬師堂」[*1]です。桐生には、氏を「桐生」と称した武士

が二系統おり、最初に登場するのが桐生六郎(前桐生氏)です。出自等、詳細は不明ですが、鎌倉時代に編纂された『吾妻鏡』には、足利氏[*2]郎党「桐生六郎」と記されています。

平安時代末期、権勢を誇っていた平氏の政治を快く思っていなかった以仁王[*3]は、源頼政と謀り、治承4年(1180)平氏追討の



命令を発します。この動きをいち早く察知した平氏方は、以仁王等が逃げ込んだ園城寺[三井寺]を攻め、ついには宇治の平等院に追い詰めます。この合戦の際、先陣を切って宇治川を渡り武勲を高めたのが下野の豪族足利忠綱であり、六郎もこの戦に加わっています。この功により、改めて支配地を安堵された六郎でしたが、世は平氏の時代から源氏の時代へと急速に転換していきます。

東国で源頼朝の勢力圏が拡大する中、足利俊綱・忠綱親子は頼朝に対立する志田義弘[*4]に味方します。しかし、忠綱の到着を前に志田は頼朝方の小山朝政に下野野木宮で敗れます。その後、足利親子追討を命じられた和田義茂は下野に向かいます。ところが、探索中に六郎は主君俊綱を殺害していました。吾妻鏡には、これを手柄に鎌倉の御家人に加わることを願ったと書かれています。しかし、頼朝は不忠不義の輩として取り合わず、六郎は断罪され、俊綱の首級とともにさらされます。これにより前桐生氏、桐生六郎の名は、わずか数年で歴史から消えてしまうのです。

なぜ、六郎は主君を討ったのでしょうか。諸説ありますが、紙面の制約上ここまでとします。

※1 桐生市梅田町1丁目25

※2 藤原秀郷を祖とする藤姓足利氏の一族。忠綱と父俊綱は平氏方についていた。室町幕府を開いた足利氏は源義家の四男義国を祖とする別の一族。

※3 後白河天皇の皇子。平家の血を引く安徳天皇が即位したため、皇嗣の道が閉ざされていた。

※4 源為義の三男。頼朝の叔父にあたる。

☆参考『明日へ伝えたい桐生の人と心(上巻)』『ふるさと桐生のあゆみ』『群馬県史』『桐生市史』『史跡梅原館(著:平沢貞作)』『桐生の歴史(発行:桐生文化史談会)』『桐生市HP 史跡梅原館』